

防災

役割

上空から被災の概況を調査するとともに、調査映像をリアルタイムに防災機関へ共 有します。

機能

● 衛星を利用かつ自動追尾し、飛行しながら映像の送信が可能(ヘリサット)

●自治体職員と合同調査が可能

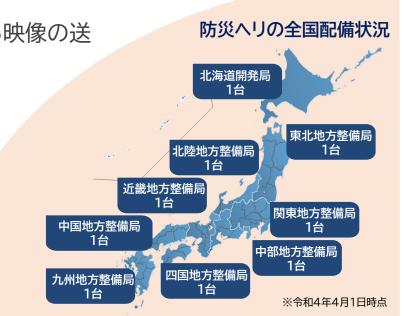


保有台数

全国に9機保有(令和5年4月1日現在)

IJ

- 令和4年台風第14号
- 令和3年7月1日からの大雨
- 令和元年東日本台風





ドローン

役割

立ち入り困難な被災現場や二次災害が懸念される被災現場で、 上空からの被災状況調査を行います。

機能

- ●広範囲や危険な場所での被災状況調査が可能
- ●通信回線を併用することで、映像を災害対策 本部等ヘリアルタイム送信が可能

保有台数

全国に610台保有(令和5年4月1日現在)

- 令和4年台風第15号
- ●令和2年7月豪雨
- 平成30年7月豪雨





### 衛星通

役割

通信が遮断もしくは困難な被災地、山間部等における通信網の確保や、監視カメラ等の映像をリアルタイムに共有します。

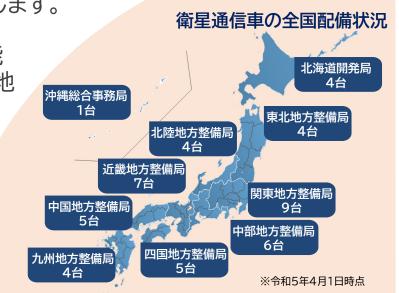
機能

- ●衛星回線を利用した映像の送受信が可能
- 対策本部車等との出動により、円滑な現地 対策本部運営が可能

保有台数

全国に49台保有(令和5年4月1日現在)

- 令和3年7月1日からの大雨
- 令和2年7月豪雨



### Car-SAT (カーサット)

役割

映像のリアルタイム送信や、災害現場の 状況把握のための電話回線を確保します。

機能

衛星を自動追尾するヘリサットの技術を応用し、走行しながら映像の送信が可能

保有台数

全国に10台保有(令和5年4月1日現在)

- 令和3年8月の大雨
- 令和3年7月1日からの大雨





#### Ku-SAT (衛星小型画像伝送装置)

役割

映像のリアルタイム送信や、災害現場の 状況把握のための電話回線を確保します。

機能

- ●衛星回線を利用した映像の送受信が可能
- ●可搬型で普通乗用車で輸送、設置が可能
- 電源AC100V

保有台数

全国に166台保有(令和5年4月1日現在)

- 平成30年大阪府北部地震
- 平成28年熊本地震







## 対策本部車

役割

被災状況等の情報収集や応急対策の指揮等、現地対策本部の運営を行います。

機能

- ●車体を拡幅し、情報収集、応急対策を検討
- 衛星通信車との併用等により、より高度な 情報収集、テレビ会議等が可能

保有台数

全国に111台保有(令和5年4月1日現在) ※待機支援車も含む

- 令和3年7月1日からの大雨
- 令和2年7月豪雨
- ●令和元年東日本台風





# 排水ポンプ

役割

大雨などにより浸水が生じた際に照明搭載の車両もしくは照明車と出動することで、 昼夜問わず排水作業が可能です。

機能

●水中ポンプ、発電機、ホースを1台の車両に搭載

● 1台あたり60m³/分(約5分で25mプールを排水)と、30m³/分(約10分で25mプールを排水)

●車両によっては、照明装置を搭載

保有台数

全国に405台保有(令和5年4月1日時点)

- 令和4年8月3日からの大雨
- 令和2年7月豪雨
- 令和元年東日本台風





### 照明亩

役割

被災地等での夜間の監視・復旧等を安全に行うための 明かりを確保します。

機能

- 2kWの照明を6灯もしくは4灯装備
- 最大、地上10mから照らし、広範囲に照明が可

保有台数

全国に291台保有(令和5年4月1日現在)

- 令和4年8月3日からの大雨
- 令和3年7月1日からの大雨
- 令和元年東日本台風





役割

二次災害が懸念され る土砂崩落現場等で、 無人で土砂撤去等を 行います。

機能

バックホウに人が搭 乗する必要なく遠隔 で操作可能

保有台数

全国に16台保有 (令和5年4月1日現在) •北海道胆振東部地震

近年の 主な派遣

2台

- 平成30年7月豪雨

遠隔操作式バックホウの全国配備状況



2台 四国地方整備局 2台

九州地方整備局

※令和5年4月1日時点

クホウ

遠隔

操



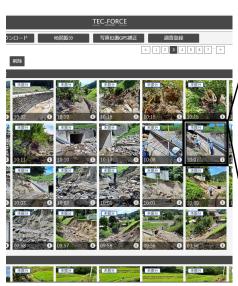
### iTEC (アイテック)

役割

オンラインでの被災状況の集約 などを可能とし、TEC-FORCE 活動の効率化、調査結果の迅速な 共有等が可能。

機能

被災箇所の位置情報・撮影データをワンタッチでクラウドにて共有





#### 導入実績

- 令和4年8月3日からの大雨
- 令和3年8月の大雨
- 令和3年7月1日からの大雨 (初導入)